



未来にわたり住み続けたい町構想は次の段階へ

コミュニティ再生事業は、フェーズ2 「長期的なコミュニティ再生」に着手

「一刻も早く安全な場所で住みたい。」大阪府北部地震被災後、住民の切実な思いに突き動かされる形でコミュニティ再生は始まりました。

すでに高槻市長の施政方針重点課題の一つとして「富寿栄住宅建て替えを契機とした副都心富田のまちづくり推進」が掲げられ、富寿栄住宅の建て替えはもとより施設一体型小中一貫校、老朽化した公的施設の再配置、余剰地の活用方法など富田のまちづくり構想は今後一気に動いていくことが予定されています。

私たちは、その方針と歩調を合わせながら、地域・家庭・学校・行政・大学・企業等多セクターとの共創により、長期的なコミュニティ再生に着手します。

富田地区コミュニティ再生事業 未来にわたり住み続けたい町の姿を描く

「誰も取り残さない」まちの仕組みづくり



この事業は以下の2本柱で行っています。

① 住まい編(住宅の建替)

子ども、大学生、障がい者、子育て世代、高齢者、外国籍の人までさまざまな声を集めたまちのプランを作成し、まちづくりにつなぐ。

② まちづくり編(長期的なコミュニティ再生)

余剰地の有効活用や子どもから高齢者を支える包摂の仕組の創出などまちの中の居場所づくりにつなぐ。

多セクターとの協働で 提案書を高槻市に提出

昨年度、「住まい編」では、入居者等ワークショップで出された住民の声に加え、富田小学校マイタウンミーティングや協定先である大阪大学大学院人間科学研究科のみなさんのご協力も得て子どもから高齢者、障がい者、外国籍住民など多様な声を集約。

「提案書」として12月に高槻市に提出させていただきました。



2020年度は次のフェーズ「長期的なコミュニティ再生」へ

長期的なコミュニティ再生にあたって次の3つに重点をおきます。(2020年度事業計画より)

① 地域・家庭・学校・行政・大学・企業など多セクターとの共創による課題解決

富田地域が長年培ってきた包摂の文化を基盤としながら、国連が提唱する「SDGs」や厚労省が掲げている「地域共生社会」の風をつかみ、多セクターとの共創により社会課題の解決にあたる。

② 次世代を担う「社会的企業家」「コミュニティ・ソーシャルワーカー」の育成

地域内施設、学校はもとより近隣の大学や大学院から若年層を発掘し、プロジェクトを通じて横断的かつ広域的、長期的な育成を図る。

③ 調査・研究の深化

これらの取り組みを「地域共生型社会」や「学校コミュニティスクールモデル」の革新性のあるモデルとして日本全国に発信するべく、2020年度は実践と並行して「研究」を深める。

01 プロジェクト1「コミュニティ・スペースの創出」

「多セクター共創の仕組」

長期的なコミュニティ再生 2020年度は、多セクター共創の仕組として地域関連組織、社会福祉法人、小中学校、大阪大学をはじめ近隣の大学から有志を募り「インクルーシブコミュニティ・プロジェクト」を発足。2つのプロジェクトを立ち上げ実施予定です。



「まちの中に包摂の居場所」

プロジェクト1では、まちづくりの先進地への視察や学習会を通じて、富田地域に一番合う居場所についてプロジェクトで協議。

制度のはざまに陥る子どもたちの居場所や大学生などが育つ場として、民家を改装した「コミュニティ・スペース」を生み出したいと構想しています。

02 プロジェクト2「教育コミュニティづくり」

「教育コミュニティ」

1990年代、富田地域ではフィールド調査を通じて大阪大学の教授故池田寛先生が「教育コミュニティ」という言葉を遺してくださいました。

プロジェクトの2つ目では、「教育コミュニティ」をキーワードに小中学校の総合的な学習の時間「いまとみらい科」の取り組みと地域が協働し、「コミュニティスクール」(文科省提唱)の実践モデルを創造していきたいと考えています。



(写真: 志水宏吉さん)



(写真: 高田一宏さん)

「共創知」を生み出す

昨年度、当法人と大阪大学人間科学研究科は、OOS協定を締結しました。

2年目となる今年度は、同大学教授志水宏吉先生、高田一宏先生、大阪大学院生の協力を得て地域と学校の協働実践をまとめていきたいと考えています。

●OOS(大阪大学オムニサイト)とは? 「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を創造していくための新たな仕組のこと。

03 新型コロナの影響



(写真:学習支援応援団のボランティアさん寄贈のマスク)

世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により、子どもの居場所事業をはじめ多くの事業が中止に追い込まれています。

また、社会貢献事業を支える収益事業の柱である講師派遣・視察の受け入れも大幅に減り、財政面でも大きなダメージを受けています。

大切な居場所を継続していくため、ぜひみなさまのご支援をお願い致します。

04 子どもの居場所レポート



子どもの未来応援基金の助成を受け、子どもの居場所づくり事業のレポートを作成。事業の立ち上げ時の思いや事業内容などをまとめています。

ご興味のある方は事務所でもチャリティグッズとしてご購入いただけます。

(500円/冊・送付の際はカンパ含め 1,000 円)

info

会員継続と支援のお願い

賛助会員として広く活動を支援してくださる方を募集しています。なお、正会員は社員として議決権を有します。

○正会員 (団体) 1万円 (個人) 5千円

○賛助会員 (団体) 1万円 (個人) 1千円

いずれも年額(1口)です。入会手続き(継続含む)と会費納入は同封の振替用紙をご利用ください。また、クレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。同封別紙をご参照ください。

(編集後記)

新型コロナウイルスの影響により、2019年度決算見込みは非常に厳しい数字でした。その際HPやSNSでの応援の呼びかけに応じて多くの方々からご寄付をいただきました。応援いただきました皆様に感謝申し上げます。